

ナカノ商会

自車比率アップに向け100台超の増車も

17年9月期は売上高380億円、営業利益12億円を目指す



自社車両を5割程度まで上げる必要がある

ナカノ商会(本社・東京都江戸川区、沼澤宏社長)では2017年9月期に売上高380億円、営業利益12億円を目指す。輸送事業が好調

ている。

荷主はドライバー不足を受け、下請けの利用について一定の制限を設ける傾向がある。「元請けとして受注するには、自車比率を5割程度まで上げる必要がある」(沼澤社長)と判断した。

また、物流不動産が市場に大量に供給されている中で、将来的な物流拠点の調達戦略として、優良物件の購入も視野に入れ、第二種金融商品取引業の登録申請も含め、物流施設特化型私募ファンドの創設準備も進めていく。

なお、16年9月期は当初予算として売上高326億円、営業利益10億円を計画。8月末時点で売上高については対予算99%を達成したものの、営業利益については新規センターの立ち上げ費用負担増により対予算25%にとどまり、増収減益となる見通し。

物流業務の受託の好調により、16年9月期は春以降、千葉県印西市に「千葉ニュータウン物流センター」(8900坪)、神戸市灘区に「神戸第2センター」(2800坪)を相次いで開設し、設備費・人件費増が利益を押し下げた。

センコー

介護事業会社を買収、独身寮改修し老人ホーム開業

センコー(本社・大阪府北区、福田泰久社長)は3日、介護事業を展開するけいはんなヘルパーステーション(本社・奈良県奈良市、久保吉伸社長)の全株式を取得して子会社化し、介護事業に本格進出した。

けいはんなヘルパーステーションは奈良県内で訪問介護、デイサービス、住宅型有料老人ホームの運営などを行う会社。1999年設立で、資本金1000万円、従業員数は191名。同社の人材とノウハウを活かして、介護事業の展開を図る。その一環として、センコーグ

ループが奈良市内に所有する独身寮を住宅型有料老人ホーム(延床面積1390平方メートル、3階建て、40室)に改修し、2017年10月より運営を開始する予定。運営は、けいはんなヘルパーステーションが担当する。

センコーでは新事業の創出と新たな事業領域への参入を目的に、今年4月にライフサポート事業推進本部を新設して同本部内にはホームビジネス、介護、ヘルスケア事業を担務する「ライフサービス事業推進部」を組織していた。

「ダイヤモンド・オンライン」で『ヤマトホールディングス』を特集!!

<http://diamond.jp/articles/-/83193>